



おすすめ本フェア

# 今、子どもと生きるということ

## 斎藤環さん選書 「親と子」

2017年2月

	書名	著・編者名	出版社	出版年	分類
1	メラニー・クライン入門	H・スィーガル	岩崎学術出版社	1977	C212メ
2	ボウルビイ 母子関係入門	J・ボウルビイ	星和書店	1981	B34ボ
3	遊ぶことと現実	D・W・ウィニコット	岩崎学術出版社	2015	C212ア
4	間違いだらけの子育て	ポー・ブロンソン アシュリー・メリーマン	インターシフト	2011	B341マ
5	あの川のほとりで 上・下	ジョン・アーヴィング	新潮社	2011	D232ア
6	虐待と親子の文学史	平田厚	論創社	2011	B34ギ
7	子育てが終わらない 「30歳成人」時代の家族論	小島貴子 斎藤環	青土社	2012	B32コ
8	母は娘の人生を支配する	斎藤環	NHK出版	2008	B34ハ
9	母が重くてたまらない 墓守娘の嘆き	信田さよ子	春秋社	2008	B34ハ
10	ひきこもりのライフプラン 「親亡き後」をどうするか	斎藤環 畠中雅子	岩波書店	2012	A39ヒ
11	母がしんどい	田房永子	新人物往来社	2012	B34ハ
12	榎本俊二のカリスマ育児	榎本俊二	秋田書店	2007 2009	EM
13	まんが親 漫画家夫婦の子育て愉快絵図	吉田戦車	小学館	2011～ 2014	ヨM
14	毎日があさん	西原理恵子	毎日新聞出版	2004～ 2016	サM

今、子どもと生きるということ

「親と子」

斎藤環さんの推薦本リスト

# 選者プロフィール

齋藤 環 (さいとう たまき)



1961年、岩手県生まれ。

1990年、筑波大学医学専門学群 環境生態学 卒業。  
医学博士。

爽風会佐々木病院精神科診療部長（1987年より勤務）を経て、2013年より筑波大学医学医療系社会精神保健学教授。また、青少年健康センターで「実践的ひきこもり講座」ならびに「ひきこもり家族会」を主宰。

専門は思春期・青年期の精神病理、および病跡学。

著書に「文脈病（青土社）」「社会的ひきこもり（PHP研究所）」「ひきこもり救出マニュアル（PHP研究所）」「ひきこもり文化論（紀伊國屋書店）」「生き延びるためのラカン（バジリコ）」「ひきこもりはなぜ『治る』のか？（中央法規出版）」「オープンダイアログとは何か（医学書院）」

## 齋藤環さんからの推薦図書メッセージ

「家族」テーマなら良い本が沢山あるのに、「親子」そのものをテーマにした本となると、とたんに難しくなります。結局、育児関係や虐待関係の本を多く採らざるを得ませんでした。硬めの理論書の比重が増えてしまいましたが、これは私の親子関係理解の基本を作ってくれた本たちで、この分野に関心のある方には一冊でも読んでいただきたいという思いから選びました。そのぶん漫画の比重も増やしてバランスをとったつもりですが。

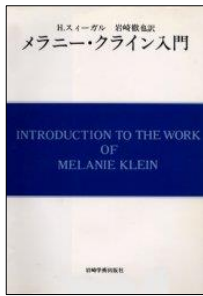
最近、「母と娘」の本はブームのように多数出版されているのに、「父と息子」の本で良いものがなかなかみあたらないのは不思議です。ひところ流行した「父性の復権」的な本は、正論に見せかけて、家父長制のような保守的価値観の復権をうたうものが多く、閉口させられました。新しい時代の「父-息子」のあり方をしっかりと論じた本を待望しています。

私が長く関わってきた「ひきこもり」問題は、「親子関係が長引きすぎるとどうなるか」という意味で、母娘関係以上に深刻な側面があります。成人してからも扶養を続けなければならないわが子とどう向き合うかというテーマには、親子関係のさまざまな本質が見てとれると思います。おそらく解決の鍵を握っているのは「対話」ですが、すぐれた子育て漫画には、しばしば良い対話のヒントが見つかると思います。

## 1、メラニー・クライン入門

H・スィーガル 著 岩崎徹也 訳

(岩崎学術出版社) 1977年



児童の精神分析で有名なメラニー・クラインの定評ある研究書であり、入門書です。「われわれ自身のだれものの中にも普遍的にいる乳児を-その飢えや怖れ、そして、その未成熟な愛情や憎悪を含めて-理解することによって、私たちは、容易にお互いを理解することができる」と著者は言います。

## 2、ボウルビイ 母子関係入門

J. ボウルビイ 著 作田勉 監訳

(星和書店) 1981年

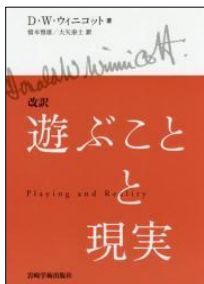


母子関係の領域で、第一人者と言われている著者。講演やシンポジウムから特に重要なものを著者自身が抜粋してまとめたものです。子どもの情緒的・知的発達には、親が自ら育て導いていくことにより良い結果が出ると言います。母子関係(広くは父子関係)のあり方を知る事は、育児に関与するあらゆる人々にとって必要不可欠なことです。

## 3、遊ぶことと現実 改訳

D・W・ウィニコット 著 橋本雅雄・大矢泰士 訳

(岩崎学術出版社) 2015年



小児科医、精神分析家として赤ちゃんと子どもの研究で多大な功績を残した著者の晩年の論文集です。乳幼児が特別な愛着を寄せる毛布、ぬいぐるみは母親やその乳房の象徴的代理であり、それにより「自分は万能ではない」との現実を受け入れていく過程の橋渡しの機能をしており、母子分化状態への移行を促すという「移行現象」をめぐる本書を著しています。

## 4、間違いだらけの子育て

ポー・ブロンソン、アシュリー・メリーマン 著 小松淳子 訳

子育ての常識を変える10の最新ルール

(インターシフト) 2011年



「大人の視点で子どもを見てはいけない、子育てはなにかを教えることではない、自力で発見するのを助けることだ」という脳と心の最新科学による子育てルールです。「きょうだい仲は生まれる前に決まっている」「子どもは正直ではない」「頭より自制心を鍛えよ」「親との対立は、絆を強めるため」など常識をくつがえす内容です。

## 5、あの川のほとりで 上・下

ジョン・アーヴィング 著 小竹由美子 訳

(新潮社) 2011年



少年が熊と間違えて殴殺したのは、父の愛人だった…。ニューハンプシャーからボストン、そしてトロントへ、父と息子の逃避行が続きます。やがて、息子は作家として成功し、父となりますが、悲しい出来事がまた彼を襲います。運命に導かれるように、彼は故郷の町の川のほとりにたどり着きます。著者の半自伝的長編小説です。

## 6、虐待と親子の文学史

平田厚 著

(論創社) 2011年



文学にあらわれた親子関係に関する表現を通して、その時代における子どもの虐待状態を推測し、日本の家族像の変遷をたどるユニークな文学史です。各時代の小説の記述から、正式統計から見えてこない、家庭内虐待の問題を考えます。明治時代の外国人から見た日本の親子、明治から現代までの父親像、母親像の変遷にも触れる虐待の近現代史です。

## 7、子育てが終わらない

小島貴子・斎藤環 著

「30歳成人」時代の家族論

(青土社) 2012年



第一線で活躍するキャリアカウンセラーと精神科医の対談集です。ニートやひきこもりに代表されるように、成人以降も子どもが自立せず、子育てが終わらないと感じる親が増えていると言います。子育ての定義、親の役割の降り方、降りるために見直す親子関係・夫婦関係に焦点を当てて語り合います。

## 8、母は娘の人生を支配する

斎藤環 著

なぜ「母殺し」は難しいのか

(NHK出版) 2008年



娘を過剰な期待で縛る母、娘の選択に介入する母…一卵性母娘、摂食障害…母と娘の関係をめぐる間は深く、娘は母を恨みつつ、その呪縛から容易に逃げられません。母は無自覚に価値観や好みを娘に植え付け、影響を与えていますが、娘が母の存在を心から抹殺することは、自己否定につながる所以说難しいと言います。臨床ケース、事件報道、少女まんがを例に挙げ、母娘の複雑な心の綾を読み解きます。

## 9、母が重くてたまらない

信田さよ子 著

墓守娘の嘆き

(春秋社) 2008年



「私が死んだら墓守は頼んだよ」「就職、どこにするつもり？会社案内はママがプリントアウトしておいたの」「そんな結婚、許さない」—どこまでもべったりと張りついて離れない母。母との名状しがたい関係に苦しみながら、それでも罪悪感にとらわれている娘たちが数多く存在すると言います。なぜ母は娘を縛るのか。カウンセリングの経験に基づいて墓守娘たちの苦しみを具体的に取り上げ、母娘関係を解くヒントを示します。ノーと言えない娘たちに贈る、究極の「傾向と対策」です。

## 10、ひきこもりのライフプラン

斎藤環・畠中雅子 著

「親亡き後」をどうするか

(岩波書店) 2012年



ひきこもりの青少年が高年齢化し、平均年齢が30歳を超えてしまった今、「いかにして生き延びるか」はますます重要なテーマとなりつつあると著者は言います。ひきこもりが続いたとしても、親の現在の資産を活用し、子どもが生きていけるライフプランの作り方を提案します。ひきこもりの問題に、経済的視点から検討と対策を試みた本です。

## 11、母がしんどい

田房永子 著

(新人物往来社) 2012年



まわりから見ると、仲良し親子。だけど「お母さん大好き！」って、思ったことがない。お母さんはいつも「あなたのため」と言ってくれます。だけどそれって、本当に私のためなの？お母さんが重苦しい！そんな著者がお母さんから逃げて失敗して、逃げて失敗して、ついに逃げ切るまでのお話を描いたコミックエッセイです。

## 12、榎本俊二のカリスマ育児

榎本俊二 著

(秋田書店) 2007・2009年



多忙といえども、漫画家ゆえに長時間家にいる著者が締切に追われる中、妻の妊娠、出産を経て、気づけば長女：通称「お姉ちゃん」と長男：通称「デカ助」の父に。問答無用で育児参画させられていく様子を、そして、育児のドタバタな日々をテンポと勢いに乗ってお贈りします。爆笑の育児エッセイマンガです。

## 13、まんが親

吉田戦車 著

漫画家夫婦の子育て愉快絵図

(小学館) 2011～2014年



漫画家夫婦の子育てを夫がマンガにしました。妊娠中に断酒している妻の前で酒を飲む、飲まない。出産に立ち会う、立ち会わない。出産・育児のいろいろな場面で直面する夫婦の葛藤をリアルにつづります。育児奮闘中のママ、パパだけでなく、子育てに関係するすべての人たちに読んでほしい、育児が楽しくなるマンガです。

## 14、毎日かあさん

西原理恵子 著

(毎日新聞出版) 2004～2016年



お団子頭にかんざしつけて、首にてぬぐいを巻き、白い割烹着姿で毎回登場の毎日かあさん。著者である、西原理恵子さんの家族や周りの人たちとの実際のエピソードをもとにして、子育ての日々をマンガにしています。第一巻から12年、どの巻を読んでも、肩の力を抜いた子育てや生活のヒントがもらえます。



主催：フォーラム（男女共同参画センター横浜）

フォーラム 横浜

検索

おすすめ本フェア推薦本は、貸し出しできます。ご利用方法は次のとおりです。

## 情報ライブラリ利用案内

男女共同参画センターの情報ライブラリは、横浜市内にあるフォーラム（男女共同参画センター横浜）、フォーラム南太田（男女共同参画センター横浜南）、アートフォーラムあざみ野（男女共同参画センター横浜北）の3館で資料の相互貸借サービスを行っています。3館の資料はどの館からも取り寄せて借りることができます。返却も3館すべて利用できます。

### \* ライブラリカードのお申し込み

カードを作る人

**個人カード** 小学生以上で横浜市に住んでいるか、通勤・通学している人

**団体カード** 担当者（直接借りにくる人）が横浜市に住んでいるか、通勤・通学しているグループ、団体

### \* 貸出・返却

**貸出** 本、雑誌、ポスター ひとり10冊（枚）まで、2週間借りられます。  
DVD、ビデオ フォーラムのみ、館内で視聴できます。  
団体カードをお持ちの方なら、館外貸出可のDVD、ビデオを3本まで、1週間借りられます。

**返却** カウンターにお返しください。閉館時は、本と雑誌のみ、ブックポスト（フォーラム）に返すことができます。

## テーマ別セット貸出について

おすすめ本フェアでご好評いただいた展示資料（選書リストを含む）を、すべてセットにして貸し出します。公共施設や図書館、学校、病院での展示に、またグループでの勉強会にもぜひ、資料セットをご利用ください。

**貸出内容** 展示するスペースにあわせて、セット貸出できます。

**貸出期間** 2ヶ月

**貸出料金** 無料（送料は、ご負担願います。）

ご希望があれば、展示のアドバイスも承ります。  
お気軽にご相談ください。

詳細はお問い合わせください。

男女共同参画センター横浜 情報ライブラリ

TEL 045-862-5056



●フォーラムは、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会が管理運営する横浜市の男女共同参画センター3館のうちの1つです。  
●パソコン（スマートフォン）向けにメールマガジンで講座・イベント情報をお届けしています。登録は協会のHPまたはQRコード（右）から

